

## ◎小学生の部

### その他の良い作品

わたしのすきなばしよ

三田ヶ谷小学校 一年

有住 春

青い空が広がるみずうみのほとり  
羽生水ごうこうえんにやってきた  
おひさまにっこりこんにちは  
あたたかいひかりにほほえんで

おかあさんといっしょにボートにのる  
みずうみをすいすいすすむ

「おい。」  
とさけぶとかえるさん

「ケロケロ。」  
つてへんじした

おおきな木の下でかけっこしよう

ともだちといっしょにどこまでも  
つかれたときはちよつと休けい  
おやつタイムでひとやすみ

いけには小さなおさかながいっぱい  
ひらひらおいでさようなら  
わたしも小さなおさかなになって  
いっしょにおよぎたいな

かぜがそよそよふいてきて  
木のはがざわざわおしやべりする  
このばしよがだいすきだよ

しばふにねころびくもをながめる  
いろんなかたちにみえてくる  
大きなくじらと小さなウサギ  
空のえ本がひろがるよ

夕日がゆつくりしずんでく  
さよならするのがさびしいけど  
またあしたもあそびたい

羽生水ごうこうえんはわたしのたから  
しぜんとえがおがいっぱいで  
こころにのこるふるさとのばしよ

すきなあさ

川俣小学校 一年

今西 美尊

わたしは、ちいさなきごえでおきる。  
そのこえは、ちいさなつばめのあかちゃん。  
おとうさんとおかあさんをよんでいるこえ。  
おなかがすいて、よんでいるのかな。  
やねのしたで、ないているあかちゃんに、  
わたしはおはようという。  
とてもかわいくちばしが見える。  
わたしもおかあさんをよぶ。  
てをつないで、しあわせだなとおもう。  
おかあさんとふたりで、えがおになった。  
たいよう、つばめ、おかあさん。  
わたしはこんなあさがだいすきだ。

## 感動をあたえるスポーツ

羽生南小学校 五年

梶原 愛咲

高校野球観戦にオリンピック観戦  
今年の夏はいつもの夏より熱い

少年野球をやっている私は

高校野球を見て

こんなプレーができればいいな  
こんなヒットを打ってみたいなと  
テレビにくぎ付けになる

四年に一度のオリンピックでは  
色々な種類の競技があつて  
どの競技を見てもワクワクする

すばらしいプレーにはこうふんし

勝利には選手と同じくらい喜び

残念な結果には選手といっしょに落ちこむ

見る人に感動をあたえてくれるスポーツ  
それはこの日のために

たくさんの努力を重ね

何度失敗しても

本番での成功を信じ練習を続けたから

一つとして同じプレーはない

一瞬一瞬の判断が試合を作っていく

勝者は喜びよりも

「ここまですが本当に辛かった」と言う  
勝ったという結果だけを見るのではなく

ここまでのがんばりを見た時  
本当の感動が生まれる

私はがんばれているだろうか

まだまだこれからだ

たくさんの目標を立て

それを達成するため

辛いことがあつてもにげずに

挑み続けていきたい

## ぼくとカブト虫

手子林小学校 四年

北 侑馬

去年の夏、近くの公園に家族でカブト虫をとりに行った。

そのカブト虫が卵を産んで、大きなよう虫になつて、茶色い大きなサナギになつた。

毎日気になつて虫カゴをのぞく。

「元氣なカブト虫になつてね。」

毎日、毎日話しかけた。

学校から帰るのが楽しみでしかたなかった。

6月20日

茶色にサナギの皮をぬいで、黒いカブト虫が土の中から出てきた。

「やった。」

「カッコイイ。」

兄弟みんなよろこんだ。

去年の8月15日に卵で産まれて10ヶ月。

土の中で成長してぶじにカブト虫になつた。

初めて家でカブト虫の成長が見られてとっても感動した。

今では、夜になると元氣に動きまわって力強

く木のぼうをかつこいい角でグイッとおして遊んでいる。  
朝になると葉っぱの下にかくれておやすみかわいいな。  
これから仲良くしてね。カブト虫君。  
また今年の夏も、家族でカブト虫を取りに行こう。

## 大きなイチヨウの木

新郷第一学校 三年

島村 紗奈

セミがミンミンとなくあつい日の朝、  
お寺におばあちゃんたちとご先ぞさまをむ  
かえに行った。  
小さいころこわかったオニの門は、もうす  
っかり大じょうぶ。  
門をぬけると、まっっているのは見上げるく  
らいの大きなイチヨウの木。  
「うわあ、大きい・・・。」と思わずつぶや  
いた。  
手を広げても全ぜんとどかない太いみき。  
わたしが何人いればとどくんだろう。  
イチヨウの木の近くに、さわるとねがい  
かなうとかいてあった。  
わたしはそのイチヨウの木をさわりながら  
目をとじた。  
（家ぞくが元気でいられますように・・・。）  
帰り道、ひいおじいちゃんが  
「さなが来てくれたからご先ぞさまがよろ  
こんでるよ。」

と、ニコニコのえ顔で言ってくれた。  
また来年も、この大きなイチヨウの木のあ  
るお寺にみんなで行きたいと思った。  
来年はどんなねがいごとをしようかな？

## あめのひ

羽生南小学校 一年

祖父江 珠与

あさ くろいくもがでてきて  
あめが ふつてきた  
そとで あそべなくて ざんねん  
でも ながぐつはいて かささして  
にわに でてみた  
みずたまりを ばしやばしやあるくの  
だいすき  
かさに あめつぶが あたって  
ぼたぼた おとがする  
たのしいな  
みずたまりに あめが おちると  
まあ い わっかが できて  
すぐ きえてしまう  
さみしいな  
みかんのきに いちわのきじぼと  
あまやどり  
あめにぬれるのが いやなのかな  
かえるは よろこんで ぴよんぴよん  
かわいいな

あさがおは おはなが びしよぬれ  
つめたいね  
くものす ぴかぴか きれいだね  
きの はっぱが きらきら ひかって  
ゆれて いる  
あめのひ すてきな はっけんできて  
うれしい きぶん  
ゆうがた にじが でてくれて  
ばんざーい

## 羽生の大事な宝物

羽生南小学校 六年

富田 芽吹

夏休み、私はムジナモを育てた  
父がもらってきた時、小さな花が一輪咲いていた  
じっと見ていると少しずつ花びらが閉じていき、やがてしぼんだ  
次の日も、そのまた次の日もじっと見ていたが、もう花は開かなかった

ムジナモにも栄養が必要だ  
教えてもらった赤玉土、ホテイアオイ、イナワラ、マコモをいっしょに入れてみた  
水の量、水の温度、日の当たり方にも気を配った  
何日かすると黄緑色の新しいムジナモが芽吹いてきた  
二つに分かれて気持ち良さそうにすくすくと伸びてゆく

ムジナモは国の天然記念物

宝蔵寺沼でのみ自生している

羽生の大事な宝物

豊富な栄養取り込んで

一生懸命生きている

保存会の方に支えられ

未来へ命をつないでいる

自然豊かな羽生、家族の大切なふるさと

おいしいお米、新鮮な野菜、利根川の雄大な流れ

この豊かな羽生で私もぐんぐん大きくなる

## まちにまつた なつまつり

手子林小学校 一年

中村 文音

「ぎゅっ。」と、こしひもをしめ  
「シュッ。」と、はかまをはく  
「ぎゅーっ。」と、さらにひもをしめ、かわい  
くりボンむすびをしてできあがり。  
きょう、わたしはねんがんの「ちごさん」に  
なった。

みやみこしときよがはじまる。  
カンカンでりであつくてあせがでる。  
ドキドキ。じょうずにできるかな。

かんぬしさんのうしろをあるく。  
しおをパラパラとまき、みちをきよめりたい  
せつなやく目。

「ドンドンドン。」 たいこの音がひびく。  
「パラパラパラ。」 しおをまく。

「おいさー おいさー。」 おみこしをかつぐ  
人のこえがきこえてくる。

「パラパラパラ。」 しおをまく…。  
わたしは、ずっとこの「ちごさん」をや  
りたかった。

はにゅうの町が一ばんあつくもりあがるこの  
日を、ずーっとやりたくてまつていた。  
四〇〇年のでんとうある、てんのうさまのお  
まつり。  
人びとの、むびようそくさいをねがい、わた  
しは、しおをまいた。  
これから、このでんとうあるおまつりが  
かわることなく、ずーっとつづいていくこと  
を、わたしはねがっている。



## 夢をくれた人

手子林小学校 六年

野本 嘉代

チーン  
私は手を合わせる  
今日の出来事をあの人に伝える  
最後に私は会えなかった  
会えたのは夢の中  
いつかまた会えるかな  
お正月はみんなで集まって遊んだ  
テストで満点をとったら喜んでくれた  
図工で選ばれたらほめてくれた  
硬筆で金賞をとったら頭をなでくれた  
毎日、空を見上げて問いかける  
そしたら、喜んでくれたような気がする  
クリスマスのはサンタの真似してふざけてた  
ワンワンワン  
私のペットの名前を付けたのはあの人  
ありがとう  
あの人が病気になった  
がんはとってもこわい病気

そう知ったのは あの人と会えなくなった  
ときだった  
チーン  
あの人のような人がたくさんいる  
助けたい  
私は将来医療に関する仕事につきたい  
そう思った  
初めてちゃんとした夢をもてた  
ありがとう  
今日も私は空に問いかける  
空の上にはあの人がいる  
私をみててね  
頑張るから  
あの人には夢をくれた人  
喜んでくれた人  
頭をなでくれた人  
そして 私を笑顔にしてくれた  
大事なこと  
みててね 私頑張るから  
いいじゃん

# みんなのおまつり

三田ヶ谷小学校 一年

萩原 菜々子

トントントントン  
おとうさんのあせが ぼとりとおちる  
カンカンカンカン  
ちいきのみんなで ぶたいづくり

ミーンミーン  
こつちにあげて もっとみぎ  
じんじやにつくった おおきなぶたい

いよいよはじまる あきまつり  
おとなも子どもぶたいにあがる  
どきどきとわくわくがまぎったきもち  
うまくおどれるかな  
きつとだいじょうぶ  
おねえちゃんも ともだちもいっしょ  
がんばったのしいきもちがわいてきた  
ぶたいのうえからおきやくさんのえがおがみ  
えた

おおとりはおまちな  
「こどもかぶき」

カンカンカンと はじまりのあいず

カランコロンと げたのおと

くるとまわした おおきなかさ

ぴったりそろって みえをきる

おにいさん、おねえさんたちかっこいい  
じんじやにひびいた はくしゅとかんせい

たのしいたのしい あきまつり  
またらいいねんがたのしみだ

## ぴーちゃん

羽生南小学校 五年

矢吹 優

ぼくの家のリビングには「ぴーちゃん」の  
写真がかざってある  
ぴーちゃんは、ぼくのお母さんのおばあちゃ  
ん  
だからぼくのひいおばあちゃん  
お母さんの地元では、ひいおじいちゃんとひ  
いおばあちゃんのことを「ぴーちゃん」とよ  
ぶんだ  
ぼくが生まれた時、ぴーちゃんは90才  
「すごくすごく喜んでくれたのよ」ってお  
母さんが教えてくれた

ぼくがぴーちゃんのこと覚えていてること  
は多くない  
でもお母さんから聞くぴーちゃんの話が大好  
きだ

ぴーちゃんの家に遊びに行くと

「よく来たなあ」とむかえてくれたこと  
ごはんを食べたら  
「大きくなるなあ」と喜んでくれて  
お風呂から上がると  
「お利口さんだあ」とかみをふいてくれて  
お絵書きをすれば  
「上手なこと」とおどろいてくれたこと  
遊んでいるすがたを見ては  
「めんこいなあ」と笑ってくれて  
帰る時はいつも  
「また来いなあ」と抱きしめてくれたこと  
確かに覚えていて  
ぴーちゃんはもういないけれど、ぴーちゃん  
との思い出は、今日もぼくの心をあたたく  
してくれている